

会議録

会議の名称	平成22年度 第3回環境審議会
開催日時	平成22年9月3日（金曜日） 14時00分から16時00分まで
開催場所	エコプラザ西東京 講座室2
出席者	委員：赤司委員、勝村委員、清水委員、田辺委員、齋藤委員、大森委員、佐々木委員、御所窪委員 事務局：小関環境保全課長、田中環境計画係長、佐藤（理）主事、佐藤（奈）主事
議題	1 開会 2 議題 （1）組織作り・連携の方向性について （2）その他 3 閉会
会議資料の名称	資料No.1 これまでの審議の整理 資料No.2 事務局試案 資料No.3 西東京市の環境保全を推進するための組織イメージ（大森委員試案） 資料No.4 御所窪委員試案
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会 本日は副会長の豊永委員と、前島委員が都合により欠席。</p> <p>（会議録確認） ・前回会議録について、確定した。</p> <p>2 議題 （1）組織作り・連携の方向性について</p> <p>○事務局： （資料No.1～2を説明）</p> <p>○委員質問： 資料No.1-3で、他の団体とのつながりをもちにくい状況にあるとあるが、何か原因はあるのか。</p> <p>○事務局： 色々な部署が個別に目的を持った活動をしており、連携がとれなくなっており、行政サイドの問題ともいえる。</p>	

○御所窪委員：

(資料No. 4を説明)

- ・事務局試案を自分で整理した。
- ・各分科会のリーダーが集まってリーダー会議をやればいいのかと思う。
- ・環境学習・環境教育の推進は全ての分野にまたがるので学校や事業者などをまきこんだ図にしたが、西東京市の実態にあわせてなおしていくといいと思う。

○大森委員：

(資料No. 3を説明)

- ・既存の組織を活かし、できるだけシンプルにしたほうがいいのかと思う。
- ・企画・調整機能と実働部門を明確にしたほうがいいのかと思うので、「環境保全推進協議会」を中心に各重点プロジェクトを位置づけ、行政と民間が力を合わせていけるようにする。
- ・行政内部でバラバラの施策をしているようなので、庁内で調整する部長級の会議が必要。
- ・ゆめこらぼ（市民協働推進センター）等機能が重複している組織とのすみ分け、連携が必要。
- ・「環境保全推進協議会」では未設置の2つの協議会（環境基本計画推進協議会、地球温暖化対策地域推進協議会）をまとめて、そこで議論したことを専門部会におろして事業を具体化したり、専門部会から協議会に提案したりするようにできるといい。

(質疑応答)

○委員質問1：

地球温暖化対策推進計画にも記載されている庁内推進委員会として環境経営本部があるがこれは活動しているのか。

○事務局：

副市長をトップとして、主要な部長をメンバーに年に数回活動している。

○委員質問2：

環境経営本部がエコアクション21の推進委員会と一体になっていないかと思うが、実際にはどうなのか。

エコアクション21と市の環境経営が一体化しているように見えるが、どうなのか。

○事務局：

現在はエコアクション21を推進する庁内の組織として、環境経営本部が機能しているが、これを母体としてそのほかの環境保全のテーマも合わせて検討審議をする組織として位置づけることができる。本来は環境施策の調整・進捗を管理。

○委員質問3：

資料3では、環境保全推進協議会は、環境基本計画推進協議会と地球温暖化対策推進協議会を一体化したものの様子に書かれているが、これらを削除して新しいものを作るのは、一貫性の観点から言って、わかりづらくなってしまわないか。

○大森委員：

同じような既存の組織を整理統合し、できるだけシンプルにしたほうがいい。

現在の環境基本計画等の計画と実態が合わないのであれば、計画等の修正が必要だと思う。

○事務局：

環境経営本部は現状はエコアクション21の進行管理になっているが、調整会議の場にしてしようというねらいはある。

エコアクション21と環境基本計画の活動は直接には連動していない。

エコアクション21では各課で環境目標をたててもらい、保育園などがたてているものなど、市が外へ向けて取組んでいる環境学習もある程度ある。

(意見交換)

・中央環境審議会（環境省）と総合エネルギー調査会（経済産業省）があるが、地球温暖化対策については地球温暖化問題への国内対策に関する関係審議会合同会議をする必要があるので、既存の組織を活かすというのはいいと思う。

・環境マネジメントシステムの目的は、庁舎からの環境負荷を少なくすることと西東京市全体の環境施策を効果的に進めていくことがあると思う。エコアクション21という環境マネジメントシステムと重点プロジェクトなどの環境施策を連動させて進めていくべきではないか。重点プロジェクトの見直しも含め環境マネジメントシステムに則って環境施策を進めていくほうが1つのものとしてわかりやすいのではないか。

・社会福祉協議会（ゆめこらぼ）をネットワークに取り込んだほうがいい。地域のネットワークづくりに長年取り組んでいるしボランティアの人たちも取りこんでいくといい。

・環境情報・学習ネットワークを御所窪委員案のように子ども、市民、事業者と3つくらいにまとめてはどうか。

・現在進めている各事業、活動のうち、必要なものは環境情報・学習ネットワークで情報交換して、全体の動向を見ながら進めていくといい。

・環境情報・学習ネットワークの機能は既存のエコプラザ運営協議会に近いのではないか。ただしメンバー構成を見直していく必要がある。

・環境施策の一貫性を保つためには、環境情報・学習ネットワークは、行政が事業指示をし、その範囲内で自主的に活動していくのが望ましいと思う。

・環境情報・学習ネットワークの将来に指定管理者とあるが、はじめから指定管理者ありきの議論は性急すぎないか。

・環境経営本部は庁内の推進委員会だが、もっと外へ向けても取組んでもいいのでは。

・環境情報・学習ネットワークに商店会・商工会も入れて、もう少し具体的に示してはどうか。

・各活動の自主性は尊重しつつも、西東京市全体として方針を示すことは大切。また、それぞれの活動をもとに、市の方針に対して提案していくようなしくみも必要。個別の活動の意見を集約して市の方針に反映し、その方針を他の活動にも浸透させていくように環境施策を全体で進めていくことが理想。

・新宿区の例をモデルに、自主性を活かした組織づくりを目指していくべき。

- ・新宿では対等な立場、顔の見える緩やかなネットワークを大きな基本理念としている。西東京市の環境推進協議会も色々な団体が対等な立場で入っているのが良いのでは。一つひとつの団体に執着したり、自分の意見を言い過ぎたりすると全体がまとまらなくなるので、あくまでも西東京市の環境をどうするのか、という点でまとまって、なおかつそれぞれの団体も元気になって全体に協力するという形がよいのではないか。
- ・環境意識の啓発をバランスよく進めていくためには、基本的な考え方で共通意識を持つことが大切。
- ・新宿では3R推進協議会という組織もあり、行政、コンビニ・スーパー・デパートの代表、市民団体が集まって同じ席で会議し共通テーマについて事業を企画・実施している。西東京市の環境保全推進協議会もそのように様々な立場の人が参加するといいい。

(2) その他

- ・環境行政の現状（エコアクション21、各種計画との関係等）について理解するための資料を用意してほしい。
- ・次回は骨子案をもとに議論をすすめたい。

3 閉会

○会長：

次回は10月8日（金曜日）午後2時から開催する。会場はエコプラザを予定。通知は後日郵送する。

以上